

## 虐待からの立ち直り

相談は、彼が中学校2年生の10月上旬に入った。彼と母親が来た。主訴は、不登校・学力不振・過食だった。私は、過食に反応した。確かに2年生にしては大柄な体型だった。聞くに90kgだと言う。

詳しい話を伺った。家族は、共に40歳で会社員の両親に、高校1年生の姉がいる。父親はうつ病を発症し、3年前から2回入院。2回目の入院は、前年の4月から4カ月だった。そのためか、感情の起伏も激しく、子ども達に暴力を振るう。3年前姉の頭を殴り気絶させ、それ以来児相（児童相談所）も介入している。当年1月から子ども達を守るため、父親には別居してもらっている。母親は彼が言うには、働き者で一心に突き進む人、褒めるときと怒るときの差が極端のようだ。悪いことをしたとき、母親が起こらないと、あとが怖くて寒気がすると言う。姉はこれも彼が言うには、母親と性格が似ており、普段は優しいいが、嫌味を言うときはすごいようだ。家庭内の緊張・不和で2度ほど、自殺未遂（薬の多飲）をしている。彼の過食の原因が分かった。

父親の2回目の退院の2か月後、すなわち彼が中1の9月から不登校が始まった。それでも月3,4日は登校したが、12月から全休していると言う。

早速心理テストを採ると、父性（頑固親父性）33（100点中。以下同様）、母性（お節介おばさん性）12、知性（コンピューター人間性）24、感性（やんちゃ性）70、順応性（いい子ぶりっこ性）62の値を示した。総体的に気分屋タイプ、やや情緒不安定型と見た。不登校が長く続いているためか、感性の値が高い。子どもっぽい面が強く、自己中心的で、衝動的な言動に走りやすい。現実認識がやや甘く、口達者な反面、冷静さ、論理性はやや欠け、同年齢の子と話すとき気後れする。他者優先的で結構気が利く反面、神経質で周りの目がかなり気になり、幼さから母子分離不安も手伝って不登校に陥っている、と分析した。

そこで、学習面が追い付け登校したいとの彼の希望から、当該中学校の出席認定を受けながら（その申請は当フォーラムがして）学習支援を行い、週3回のカウンセリングと月1回の野外活動、来春の行われる4泊5日の豪州交流合宿を通して精神面の発達を促し、自信の回復と対人関係の改善を図る提案をさせて頂いた。また、日々の生活では体重調節のために、毎日30分の運動を課し、食事の改善もお願いした。

本人と母親の同意の元、学校と児相とも連携して対応を始めた。それゆえ、上記の分析と提案は学校や児相にもお伝えし、学校や児相の認識・判断もお聞きし、情報共有させて頂いた。

1か月後、早速効果を現した。当時ほか4名の同じく不登校の中学生と共に学習し、活動に参加する中で、緊張感が薄れ、彼が本来持っている優しさや思いやりが現われ、母性が12から74に跳ね上がった。

ところがその分析をした5日後、彼は初めて連絡もなく2日間、フォーラムでの学習を休んだ。不審に思って2日目の夜彼の家に電話すると、「明日、本人を連れて行きます」と

母親から言わされた。母親はこの2日間の欠席を知らなかつた。

翌日本人から聞くに、こうだつた。

1日目、フォーラムの教室まで来るも忘れ物に気づき、引き返した。9時頃の電車に乗り、○○駅に着き、自宅に帰つた。そう、彼は遠方からフォーラムに通つてゐた。10時頃から11時まで自宅にいて、昼食を食べた。11時に自転車で○○公園（自宅から約6kmほど）に行き、遊んだ。15時頃、母親の会社に顔を出す。その後、自転車でその会社から自宅までの間を乗りまわり、18時半に帰宅。母親はいつも19時頃帰宅すると言う。

2日目、7時半、自転車で自宅を出て最寄りの駅に行くも気が向かず、1kmほどにある公園等で時間をつぶす。その後、自転車で10kmほど先にある江戸時代の有名な寺に行き、そこで弁当を食べる。午後は自宅近くの公民館の図書館で、マンガ（彼はその時「本」言つたが、後に打ち明けた）を読む。17時頃、母親の会社に寄る。その後、帰宅。

高い感性と低い父性・知性が示す通りである。

2日後、当該中学校に報告に伺い、さらに3日後先にFAXで報告書を送り、その9日後児相に伺つた。そこで、心理判定員の方に彼の分析を聞いたが、詳細はその性質上割愛させて頂く。ただ1点、彼がうそをつくのは、自分を守る抵抗だと教えられた。

その後は彼はフォーラムをサボることなく、カウンセリングと学習、野外活動をこなしていった。1月なると、学習面で一部の教科が追いついてきたことから、3日間ほど学校に登校した。2月も同様だったが、中旬の2日間行われた期末試験は、1日目は登校したが、受けなかつた。理由は後に聞いた。

3月になってからは、追いついた教科がある火・金曜日に登校し授業を受けた。2日ほど、近くの公民館の図書館で勉強するとの連絡があり、フォーラムを欠席した。ところが中旬、またしても2日連続でフォーラムに連絡もせず、市内を自転車で走り回り、それが母親に知れ、夜中2時間説教されたと言う。

その翌日彼がフォーラムの教室に来た時、学習をやめて彼の話をじっくり聴いた。学習について、まず英語は1年生でやり始めた時からつまずきを感じたこと。どのように英単語を覚えたらしいのか分からず、ドンドン分からなくなつたこと。数学は、正負の加減乗除は分かつたが、文字式と一次関数からつまずいたこと。先月2月の期末試験は、1時間目の数学の一次関数の問題を見て0点になりそうで受けなかつたこと。国語は漢字以外はOKで、社会もOK。理科は、化学式が出てき始めた時から分からなくなつたこと、など語つた。

次に家族について語つた。冒頭述べたことのいくつかは、この時語られた。ほかには、小学生の時に父親と釣りに行って、取り逃がしたらライラされたこと。父親から姉と比較され、頭が悪い、のろまだとよく言われたことなど。いい思い出は語らなかつた。

そんなことを語るうちに、突然彼は「もう僕、新学期から学校に行きます！」と宣言してきた。私のカウンセリングでもう心理的には学校に行ける状態になつてきたと言つた。この2日間、フォーラムを欠席しながら考えていたと言う。そしてそれが、昨夜の2時間渡る母親の説教で決意したと言う。そして、「A4のコピー用紙1枚貰います」と言ってコピー用

紙を取りに行き、その場で数日後に迫った春休みの学習計画と、登校し始める新学期以降の夜のフォーラムでの月曜日から土曜日までの 1 週間の学習計画を書き始め、覚悟を見せるために、最後に今日の日付と自筆で名前を書き、私から朱肉を借り、右手人差し指で母印を押して私に差し出した。ここにその誓約書がある。

そして春休みの最後、4月1日～5日に行われたオーストラリア・ペンリス市で行われた交流合宿に参加し、初めての異国之地で同世代の仲間たち (Buddy の外国の中学生も含めて) と一緒に様々な活動を行い、すっかりコミュニケーション能力と自信を身に付け、帰国後の翌日から当該中学校の登校し始めた。